

ブドウ黒とう病春季防除情報

令和2年3月2日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

越冬量が多いと予想します！防除を徹底しましょう！

1 昨年の発生状況

近年、愛知県内における本病の発生量が多い状況が続いています。昨年も、栽培期間を通して多い状況が続き、本病の最終調査である6月下旬に行った巡回調査（18ほ場）では、発病新梢率が1.4%（平年0.43%、前年1.6%）で、過去10年と比較して2番目に多い状況でした。そのため、今春における本病原菌の越冬量は多くなっていることが予想されます。

2 防除対策

- (1) 本病原菌は、棚に残っている巻きひげや被害枝などで越冬しています。これらが第一次伝染源になるため、見つけ次第、園外へ持ち出して処分しましょう。
- (2) 本病は休眠期と生育期の防除を組み合わせることが効果的です。表を参考にして休眠期防除を実施しましょう。
- (3) シヤインマスカットは巨峰より本病に弱いため、特に防除を徹底しましょう。
- (4) 4～5月になると、降雨のたびに分生子を多数形成し、雨滴とともに飛散して感染を繰り返します。特に、萌芽したばかりの軟らかい新梢や新葉は本病に感染しやすいため、薬剤防除を実施するとともに、発病部位は見つけ次第除去しましょう。
- (5) スピードスプレーヤーで防除する場合、薬剤がかかりにくい場所は手で散布するなどして、かけ残しがないようにしましょう。

表 休眠期・発芽前に使用するブドウ黒とう病に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	希釈倍数	成分の使用回数	成分	FRACコード
ベフラン液剤25	休眠期	250倍	3回以内(休眠期は1回以内、生育期は2回以内)	イミノクタジン(酢酸塩)	M7
ベンレート水和剤	休眠期	200～500倍	4回以内(休眠期処理は1回以内、散布は3回以内)	ベンミル	1
石灰硫黄合剤(※)	発芽前	7～10倍	-	石灰硫黄合剤	M2

※一般的な農薬とやや性質が異なることから、使用上の注意をよく読んで使用する。

FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/labo/jfrac/pdf/code_pdf01.pdfを参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。